





Contents

- 04 特集 AKASAKA KX-Project  
鹿島トランスフォーメーション
- 16 連載 Walking in the rhythm—都市のリズム  
scene 05 ビーゴ
- 20 THE SITE  
(仮称)九段南一丁目プロジェクト新築工事
- 24 第17回 KAJIMA 彫刻コンクール
- 26 K works  
中国人壽金融大樓 ほか
- 31 K board  
「アーバンネット仙台中央ビル新築工事」が  
着工 ほか
- 34 創る・造る・作る  
「場」をつくる——反田恭平
- 35 鹿島に見える風景  
赤坂農園でリフレッシュ!

- 1: KIビル アトリウム
- 2: 赤坂別館 執務エリア
- 3: 本社 役員会議室
- 4: 赤坂別館 執務エリア

Photo: Cover, 1, 3, 4 大村拓也 / 2 Nacasa & Partners

AKASAKA KX-Project(東京都港区)

AKASAKA KX-Projectは、当社が本社機能を有する赤坂地区オフィス再配置プロジェクトで、土木・建築部門を各ビルにそれぞれ集約し生産性向上を図る「オフィス環境の変革」と併せて、働き方の見直しもを行い、ABW\*推進や社内外との結束・融合を促進するコミュニケーションハブを整備する「ワークスタイルの変革」を目指す。

1989年竣工のKIビルは、今も空間の豊かさと佇まいで社員を魅了し続ける鹿島のオフィス空間の原点といえる。AKASAKA KX-Projectを契機に、この空間を改めて見つめ直し、その精神を受け継ぎ、創造的で活気あるオフィス空間につなげていく。

\*Activity Based Workingの略称で、「時間」と「場所」を自由に選択できる働き方

4～15ページに関連記事掲載



2



3



4



1





### Kタワー

- デジタル推進室
- ITソリューション部
- 環境本部 地球環境室

### 鹿島本社

### KTビル

- 土木管理本部
- 機械部
- 海外土木事業部
- 土木設計本部
- 東京土木支店

### Motoakasaka

### KIビル

- エンジニアリング事業本部
- 環境本部
- 知的財産部
- 建築設計本部

### Akasaka

### 赤坂別館

- 建築管理本部
- 東京建築支店
- 開発事業本部
- 海外事業本部
- 原子力部
- 安全環境部
- 総合事務センター

迎賓館赤坂離宮

東宮御所

皇居

国会議事堂

首相官邸

# AKASAKA KX-Project

## 鹿島トランスフォーメーション

今、鹿島では、これまで積み上げてきたバリューチェーンを活かしたさらなる独創性の高い企業グループを目指し、本社圏の基盤づくりを進めている。「AKASAKA KX-Project」と名づけられたこの赤坂地区オフィス再配置プロジェクトの狙いは、土木・建築部門の集約により生産性向上を図る「オフィス環境の変革」と、ABW推進や部門間および外部など社内外との結束・融合を促すコミュニケーションハブを整備する「ワークスタイルの変革」だ。これらの変革により鹿島グループの長期ビジョン「人の思いと技術を受け継ぎ想像と感動をかたちにするために新しい発想で挑戦しつづける」の実現を目指す。多様な人材が集う企業グループへの質的发展を目指す鹿島が、過去に対する敬意と未来への挑戦を込めた AKASAKA KX-Project を追う。





KIビル アトリウム



Message  
赤坂と飛躍、  
継承と鹿島、

社長 天野裕正

当社が、戦前から居を構えていた八重洲から、赤坂に本社機能を移転したのは東京オリンピックの興奮冷めやらぬ1968年のことです。赤坂は、江戸時代には旗本屋敷が並ぶなど、古くから栄え、政治の中心である永田町にも隣接する、ビジネス・政治・文化が融合する緑に囲まれた街です。1968年は、当社が手掛けた、超高層時代の幕開けともなる霞が関ビルディングが竣工するという時代背景で、以来、今日に至るまで、赤坂の街を拠点に、当社は事業の拡大・深化を図ってきました。

今般、当社は本社圏の部署再配置を行う「赤坂地区オフィス再配置プロジェクト」を実施いたしました。建築系部門を赤坂別館・KIビルへ、土木系部門を本社ビルに隣接するKTビルへ集約することで、中期経営計画にも掲げる「中核事業の一層の強化」を目指しています。また、再編を機に、多様な働き方を実現する新しいオフィス環境への変革を進めています。企業の組織やその配置は、その時々々の経営課題や外部環境によって、柔軟に変わっていくものです。現状を終着点とせず、今後も必要な改善を加えながら、社員一人ひとりが、従来の常識の枠を超えた「新時代の働き方」即ち、自律した、well-beingな働き方の実現に挑戦し、新しい鹿島への変革を起こしていきたいと考えています。

赤坂の地で、50年以上にわたり、社員一人ひとりが不断の努力で築き上げた、当社グループのバリューチェーンは、他に類を見ないものとなっています。長年培ってきた、当社の普遍的価値観を大切に継承しつつ、新たな取組みを有機的に重ねていくことにより、当社グループは更なる飛躍を目指していきます。



photo: Nacasa & Partners

写真: ANAGAWA RAFFIUELLI



photo: Nacasa & Partners

photo: Nacasa & Partners





photo: Nacasa & Partners

KIビル ゲストラウンジ



photo: Nacasa & Partners

建築 AKASAKA KX-Project

本社 役員会議室



photo: Nacasa & Partners



photo: takuya omura



photo: Nacasa & Partners

KIビル 会議室



photo: takuya omura

本社 役員会議室



KTビル 執務エリア

photo: 川澄・小林研二写真事務所



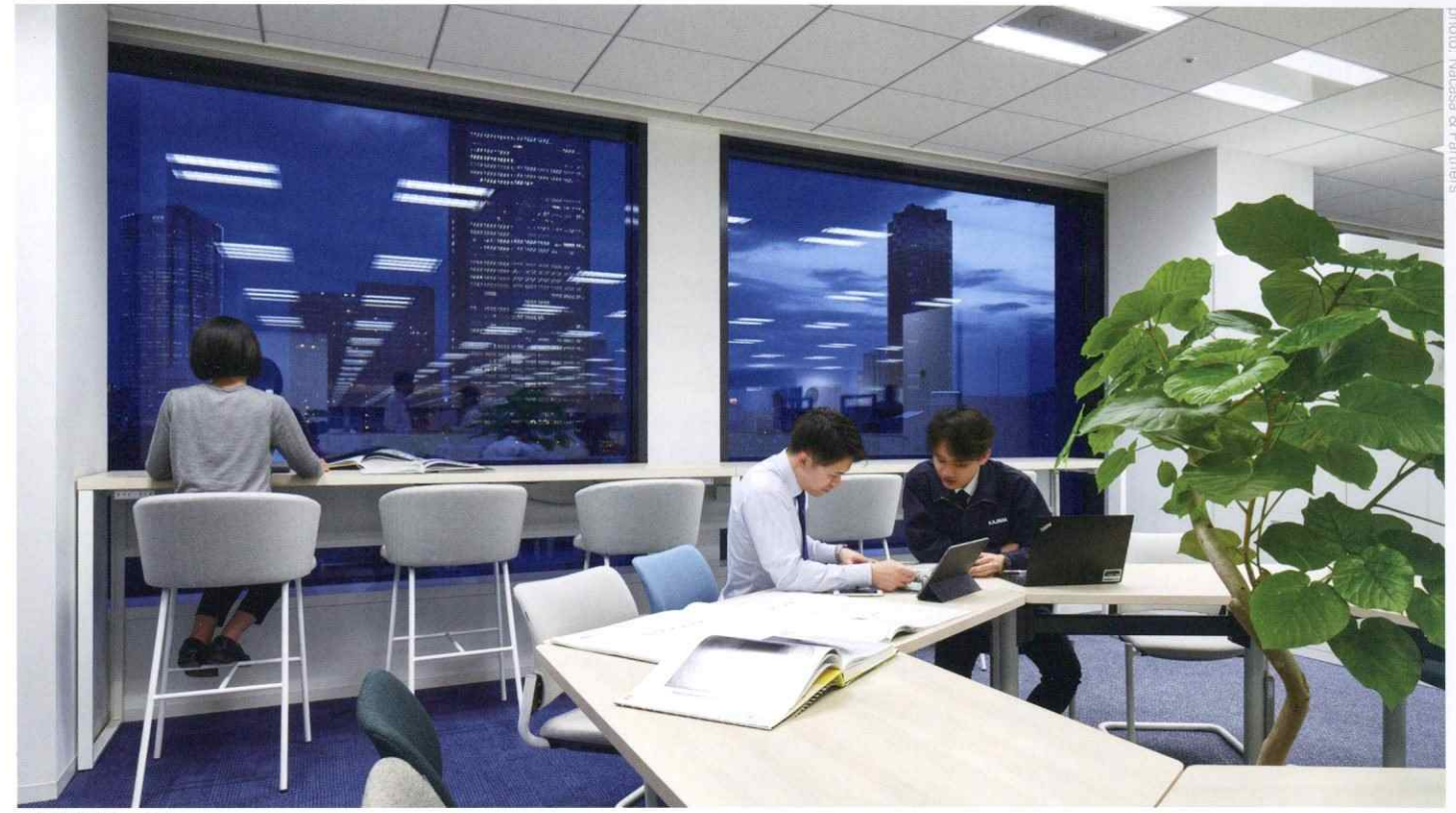
photo: 川澄・小林研二写真事務所





赤坂別館 食堂・カフェエリア

photo: Nacisa & Partners



赤坂別館 執務エリア

photo: Nacisa & Partners

建築 AKASAKA KX-Project



研修施設 プレゼンテーションルーム (KX-LAB)

photo: takuya omura



サテライトオフィス 交流スペース(KX-SQUARE, 社員寮併設)

photo: Nacisa & Partners



photo: Nacisa & Partners



photo: Nacisa & Partners



photo: Nacisa & Partners



サテライトオフィス(KX-SQUARE, 社員寮併設)

photo: SS Co. Ltd, Shimao/Nozomu



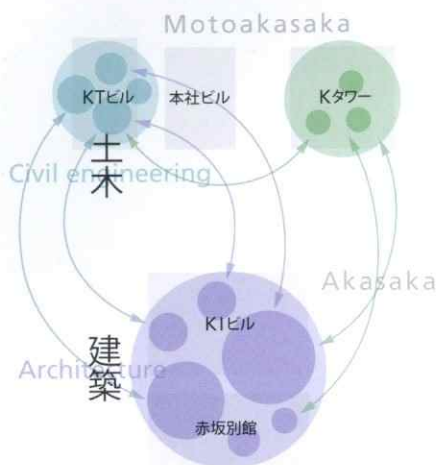
# AKASAKA KX-Project

## 赤坂地区における鹿島の段階的な変革

step1として、昨年10月に赤坂地区オフィス再配置が完了した(下図参照)。続くstep2では、既存のKIアトリウムに加えて、新たに赤坂別館食堂の一部をカフェスペースに改良し、社内連携を図る「Communication Hub」を整備。今後、本社やKTビルでも同様の検討を進める予定だ。step3では、鹿島全社や外部とのインターフェースとなる「Communication Hub」を計画している。

### step1

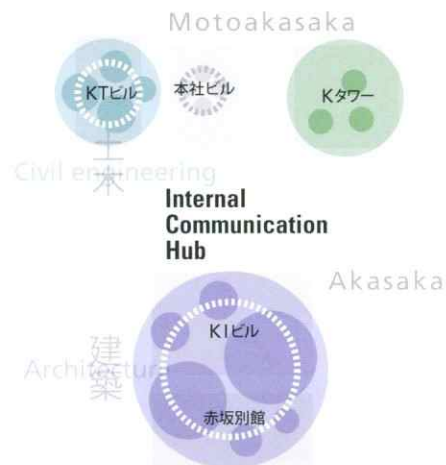
土木(KT)、建築(KI・別館)を集約  
▶事業部門ごとの生産性向上



Team Communication

### step2

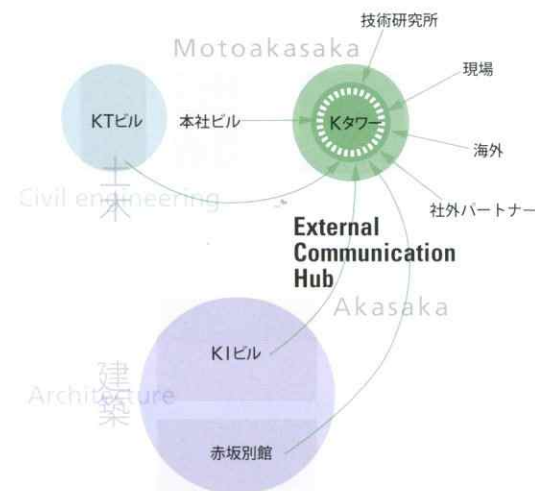
社内の交流・融合を促すHubの整備  
▶各ビル群での交流・連携促進



Internal Connection

### step3

鹿島全社と外部が繋がるHubの構築  
▶人・情報が行き交いイノベーションを創出



External Collaboration

KTビル	本社ビル	Kタワー
12 東京土木支店		
11		
10		
9 東京建築支店		
8		
7		
6		
5		
4 東京土木支店		
3		
2		
1		

KTビル	本社ビル	Kタワー
12 土木管理本部		
11		
10		
9 機械部		
8 海外土木		
7 土木設計本部		
6		
5		
4 東京土木支店		
3		
2		
1		

## before

赤坂別館	KIビル
9 建築管理本部	
8 エンジニアリング事業本部 安全環境部	8 土木設計本部
7 土木管理本部	7
6 機械部 土管本 海外土木 開事本	6 土設資料室 知的財産部
5 開発事業本部	5
4 海外事業本部 原子力部	4 建築設計本部
3 ITソリューション部 環境本部	3
2 総合事務センター	2
1	1

## after

赤坂別館	KIビル
9 建築管理本部	
8 東京建築支店	8 エンジニアリング事業本部
7	7 環境本部
6	6 建管本資料室 知的財産部
5 開発事業本部	5
4 海外事業本部 原子力部	4 建築設計本部
3 開事本 東京建築支店 安全環境部	3
2 総合事務センター	2
1	1

step1における社内の部門集約前後の変化

## well-beingな働き方の実現に向けて

～AKASAKA KX-Projectを通じて鹿島グループが目指すもの～

「赤坂地区オフィス再配置に関する天野社長の思いを短期間でどのように実現していくか、また、この再配置を単なる引越だけで終わらせず、いかに新しい働き方への変革へと繋げていくかの二点に注力しました。事務局ではこれをKX-Project (Kajima transformation PJ)と呼んで取り組みました」と赤坂地区オフィス再配置プロジェクトを統括する市橋克典常務執行役員秘書室長は話す。

12ページに示すとおり、現在はstep2～3が進行中だが、step1最大の課題は、対象となる約1,600名や仕事をスピーディ、かつ、新たな執務空間に改善しながら移転を完遂させること。調整が難航する中、突破口を開いたのは東京建築支店が決断した霞が関ビルへの仮移転だった。事務局長

を務める開発事業本部 室橋成忠資産運用部長は「KTビルに空き床ができたことで、改編工事を行った後に移転が可能となる好循環が生まれ、この難題を乗り越えることができました。一度ならず二度までも移転に協力してくれた東京建築支店や移転対象部署の皆さんに感謝しています」と振り返る。

移転を機に、フリーアドレスなどABW型の新しい執務空間を実現した部署からは多くの反響があったという。「『仕事の場所を選んで良い』や『新たな気持ちで仕事ができる』などの好意的な声をたくさん聞くことができました。今回の再配置で時間がなく、ABWに対応できなかった部署や今後オフィスを改善する部署は、先行部署の良い点などを見てもらい、役立ててほしいと思っています」と室橋部長は語る。



市橋常務執行役員秘書室長(右)と開発事業本部 室橋資産運用部長(左)

「この移転でハードの環境は変わりましたが、新しい働き方へのソフトの取組みはこれからです。今後は鹿島グループ全員の意識や行動変革が必要となりますので、このKX-Projectを自分ごととして捉え、well-beingな働き方の実現に向けて持続的に取り組んでほしいと考えています」(市橋常務執行役員)。

### 移転の先に

改編工事・移転を終えた一部の部署に感想や今後について話を聞いた。

赤坂別館

#### 建築管理本部

(建築企画部企画・管理グループ 渡辺麻子課長)

4月に運用が始まったばかりですが、工事期間中に経験したフリーアドレスでは想像以上のコミュニケーションを生み、あらゆる可能性を秘めていると感じました。ペーパーレ

ス化や、他部署との協働、様々な職種が集う組織の特性を活かしたイノベーションを生むオフィスになったと考えています。



#### 東京建築支店

(管理部総務グループ 寺島毅課長代理(当時) / 現九州支店管理部総務グループ課長代理)

オフィス設計や什器類の選定は、中堅・若手の意見・要望を多く取り入れ、コミュニケーションを強化するスペースや個人が集中して業務を行うスペースなど、若い世代の社

員が働きやすい環境になっています。異動や入れ替わりにも柔軟に対応でき、今後その効果がより実感できるのではないかと思います。



#### 開発事業本部

(企画管理部総務グループ 富田理恵子課長代理)

オフィスなどの商品企画を含めた開発事業を専門とする部署につき、「想像力／創造力を育む空間」と、変化や更新に対応可能な「間／余白／可変性」を意識した計画を目

指しました。今後は、部員達のコミュニケーションから生まれるインテリジェントなアイデア溢れる空間に更新されていくことを期待しています。





## 土木管理本部 (管理部長 清水賢一)

土木部門が一つのビルに集約されたことにより、土木の一体感やコミュニケーションが向上したと感じています。移転後は、さらに積極的に部署間のコミュニケーションを取ろうとする姿勢が見られるようになりました。業務にもより集中しやすい環境になったと考えています。



土木部門が集約された省エネオフィスKTビル

## 環境本部

これまで個人ワークとチームワークを掛け合わせたような働き方をするグループが多かったため、ワークスタイルは維持しながら、オフィス設計ではワークスペースを中心に見直しを図りました。新たなオフィスは、配置に余裕ができ、コミュニケーションも取りやすくなったと思います。



環境本部はKIビル屋上庭園・赤坂農園とフラットに繋がるフロアに入居

## 座談会

### オフィス再配置の舞台裏



**松本** 本日は、今回のオフィス再配置にあたり各方面の最前線でご尽力いただいた実務担当の皆様にお集まりいただき、外からはなかなか知り得ない裏話・苦労話などを振り返ってお聞きしたいと思っております。

**中井** 東京建築支店はトップバッターであり、移転までの期間の短さ、750人の大所帯、3ヵ月で仮移転を含む2回の引越し、さらにオリパラによる交通規制とバッティングするという、これまでに経験のないハードルの連続でした。

ある程度トップダウンで決めていく必要がある一方で、若手社員の意見を積極的に取り入れるという方針のもと、支店内の幅広い意見を集約した上で、スピーディに上層部の承認を得られることを意識して奔走したことが思い出されます。

**松井** 赤坂別館(別館)食堂のリニューアルを中心に担当しましたが、総合事務センターとして、社員一人ひとりにとってより快適な環境を目指す一方で、日々運用に携わっていただいている食堂運営会社や管理会社などの現場スタッフの視点にも立った調整に腐心しました。

支店の現場などと比べると、なんとなく本社圏は部署間の関わりが少なく感じていたのですが、今回の改編をきっかけにカフェエリアが部署を跨いだコミュニケーションの場として積極的に活用されて、活発なアイデア創出や社員の多様性も受容されるような社内文化に繋がっていくことを期待しています。

**日高** 今回の改編は極めてタイトなスケジュールの中、Kタワー・KT・KI・別館と玉突き方式で各部署が入居していく計画だったため、一箇所でも工程を遅らせられないという思いで臨みました。まさに綱渡り的な緊張感の中での工程管理でしたが、グループ会社であるイリアやクリマテックなどと協働での工事だったので、着工前から工事定例の場を設け、先行して品質に関する懸念事項の洗い出しを行うなどの工夫を行いました。それがなかったらこの工期での完了は実現できていなかったと感じます。今後は、現場事務所でも今回の本社圏のような環境が実現できれば素晴らしいと思います。

**福岡** 設計としては、やはり超短期スケジュールが最も苦労した点ですが、イリアでは既に3年前にフリーアドレス化を実現しており、鹿島本社ビル群の設計思想を継承しながらも、自らの実体験により働き方を変えていくメリットや運用面でのノウハウなどを伝えられるよう心掛けました。イリアでは、今回の改編を機に社員一人ひとりが自分の働き方に向き合うようになり、結果として自主性が高まったことが大きなメリットであると感じています。

**古川** 全社的な事務局としては、各部署からの様々なレベル感の意見を調整することに心を砕きました。円滑で公平な事務局運営を肝に銘じつつも、各所で個別調整が同時並行的に進んでまい、情報をタイムリーに把握して全体をコントロール

することの難しさを感じました。

一方で、短時間でも直接会話をすることの重要性を改めて認識する機会にもなり、今回の改編のテーマの一つである「近接性」により、益々有効な交流を図っていければと思います。

**松本** 皆様ありがとうございました。これからが「ワークスタイル変革」の始まりかと思っておりますので、今回の改編を通じて社員一人ひとりが成長していけるよう、引き続き尽力していきたいと気持ちを新たにしました。今後の変化が楽しみです。

参加者 写真左から、

(全体事務局)開発事業本部企画管理部総務グループ課長代理 資産運用部資産活用グループ兼務

古川健吾

(設計)グループ会社イリア ファシリテーション部副部長

福岡正文

(全体事務局)開発事業本部資産運用部管財グループ課長

松本麻里恵

(支店事務局)東京建築支店管理部長

中井紗也香

(施工)東京建築支店リニューアル事業部赤坂事務所(当時) 現東京建築支店(仮称)明石町プロジェクト工事事務所

日高純憲

(総務)総合事務センター施設グループ

松井奈那

## 新しい働き方への取り組み 本社圏ワークスタイル～ワークショップ開催～

中期経営計画のビジョンステートメント実現に加え、長時間労働是正に向けて、業務の質を維持しながらも効率性を重視する働き方への変革が求められている。

今般、赤坂地区の部署再配置とオフィススタイルの見直しを契機に、改めて各部署社員の今後のワークスタイルについて考え方を整理。必要な見直しを行うことが不可欠との認識から、その第一ステップとして、本社圏オフィスで働く社員をターゲットに、新し

いワークスタイルを検討するワーキンググループが立ち上げられた。



ワークショップの様子

ワークショップ形式を取り入れ、当社研修施設(KX-LAB)にて部門横断の多様なメンバーによって検討を実施。ハードとソフト、すなわちオフィススタイルとワークスタイル双方が両輪となり、継続的に改善する仕組みをつくることで、生産性・創造性の向上、競争力強化、選ばれ続ける会社への進化を目指す。

## Kタワーを舞台とした挑戦

赤坂Kタワー5階の一角に、鹿島の新たな拠点が構想されている。全社的部門が執務する空間と社内外に開かれたコラボレーション空間「Communication Hub」が共存する場として計画中だ(12ページstep3参照)。鹿島が誇る人・技術・文化を活かした「地球課題の解決」を主テーマに、設計部門を含めた入社4～6年目の若手社員が中心となり、自由な発想で検討。ABWの導入や、環境が人のマインド形成や行動変容に寄与する点に着目する。また、Kタワーが本社・KT・KI・赤坂別

館などの拠点から徒歩圏内に位置する立地も活かし、これからの新たな空間や共創

の在り方に挑戦する。



イメージバース

## 現場での新しい働き方

鶴見研修センター新築工事(横浜市鶴見区)では、自社開発設計施工案件のメリットを活かし、新規項目も含めた様々なICTツールを導入。工事事務所にABWを取り入れた新たな働き方として、フリーアドレスや集中ブース、立ち会議用テーブル、ソファ席、昇降デスクなどを採用し、事務所内には現場可視化のためのモニターを7台設置した。



中山卓哉所長

中山卓哉所長は、「フリーアドレスや集中ブースの導入により、整理整頓やペーパーレス化が自然と推進され、またICTツールを複数組

## 鶴見研修センター新築工事事務所

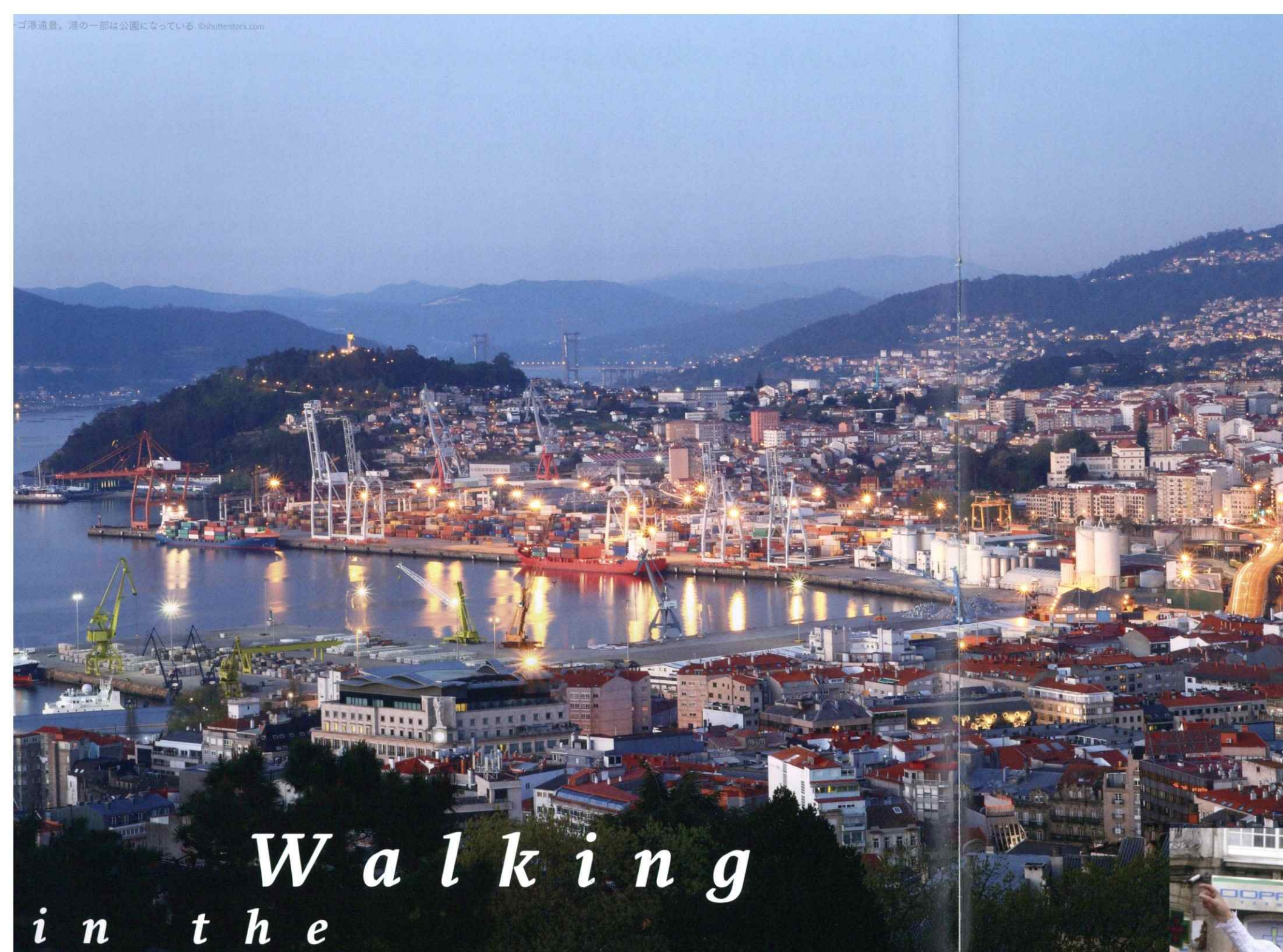
み合わせることで日々の業務時間を1時間ほど削減することができました。月に換算すると20時間以上の削減効果となり、若手社員は時間外45時間未満を達成できています」と手応えを語る。「現在行っている工

事事務所内での行動分析の結果も見つ、今後も新たな働き方のチャレンジを続け、これが将来の現場のスタンダードとなるよう取り組んでいきたいと考えています」。



スマート工事事務所





カストロ城の遺跡から見下ろすビーゴの街並み ©shutterstock.com

19世紀から20世紀半ばに、経済的、政治的な事情でスペインからカリブ・中南米に渡った移民のうち、北西部のガリシアからの移民はビーゴ港からアルゼンチン、ベネズエラ、キューバなどへと向かった。ビーゴ港には彼等を表した像があり、やむを得ず故郷を後にする人と見送る家族の複雑な感情が表現されている。

現代スペインを代表するビーゴ出身のガイテイロ(バグパイプ奏者)、カルロス・ヌニェスが、1996年にリリースした初ソロ・アルバムの最後の曲は「Para Vigo me voy (私はビーゴに帰る)」だ。この曲はキューバの作曲家エルネスト・レクオーナの作品で、1935年にハバナのガリシア県人会のためにつくられたという。ガリシアから渡ってきた者が出港地であったビーゴに里帰りすると高らかに歌う

歌詞で、現在でもよく演奏される。

\*

ガリシア音楽は、一般的なスペインの音楽として想起される南部アンダルシア地方のフラメンコなどとは大きく違う。後述する中世の写本にも登場する、ガイタというバグパイプと、サンフォーナという擦弦楽器にボンボやバンデレータというパーカッションなど独自の楽器が演奏され、祭りの花形である民族舞踊とも密接な関係がある。強い地域性をもっているが、広義には現代でも古代ケルトの文化を継承する、アイルランド、スコットランド、ウェールズやコーンウォール(イギリス)、マン島やブルターニュ(フランス)、ノバ・スコシア(カナダ)などのケルト文化圏の音楽のひとつとされている。

スペイン北西部にあるガリシア州は、湯いた大地に風車というスペインの一般的なイメージとは異なり、緑が豊かで雨も多い。

ポンテベドラ県にあるビーゴは大西洋に



トランクとして見知らぬ土地に向かう父親と見送る家族の像

# Walking in the rhythm

scene 05 — ビーゴ

文・写真：高橋めぐみ 企画監修：石橋 純

都市のリズム



Vigo, Galicia, Spain

ガリシア人の魂の音楽

美しいシヨールを身にまとい、弾むようにトランキニエインを踊る女性たち





バンテレータ(タンバリン)状のフレムドラムとバンテロー(四角のフレムドラム)を叩きながら女性たちが地声を響かせて歌うバンテライダ



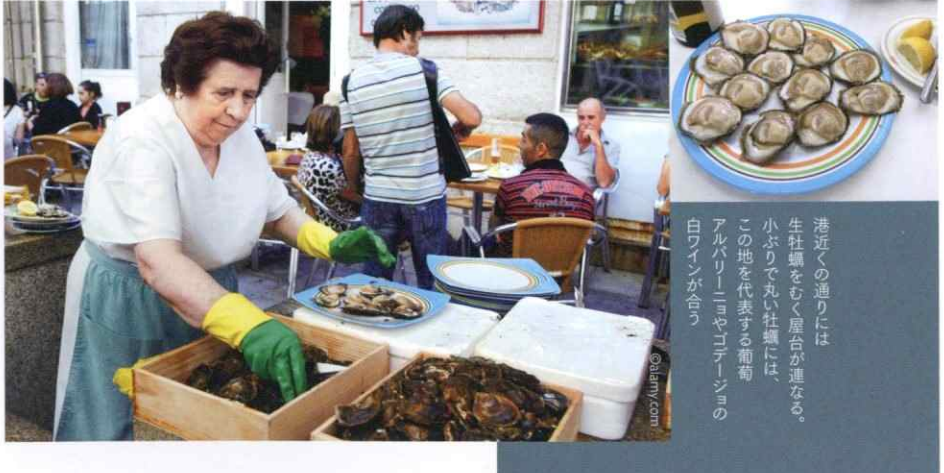
面し、人口約30万人の国内最大の港湾都市で、港は近代的に整備され海上交通の便も良い。リアス(リアス式海岸という名称の元にもなった沈水海岸)の地形により豊富な海の幸に恵まれた新鮮な魚介料理は、多くの観光客を惹きつけている。

中世においてはバイキングの、大航海時代以降はフランシス・ドレークらの私掠船の襲撃に遭い、イギリス軍やフランス軍にも侵攻されたが、スペイン独立戦争(1808-1814年)の後、フランスから解放されると農業や漁業などの産業が安定し経済的にも発展した。また、この地域では紀元前から城をつくる築城文化が発達していたことと、海からの侵略に対して要塞が整備されたことからそ

れらの遺跡も多く残っている。

\*\*

音楽を語る上で外せないのは、やはりケルト文化の影響である。ケルト人のガリシア定住の起源の正確なところはわかっていないが、紀元前5世紀から7世紀にはピレネー山脈を越えてきたと推測されている。今ではケルトは文化的アイデンティティとして認識されているため、ガリシアのミュージシャンは、前述のケルト文化圏のミュージシャン達との交流が盛んで、国内外のケルト音楽フェスティバルに多く参加している。中世に編纂された「聖母マリアの頌歌集(Cantigas de Santa María)」の写本には、ガイタを含む様々な楽器を奏でる楽士が描かれている細密



港近くの通りには生牡蠣をむく屋台が連なる。小ぶりで丸い社餅には、この地を代表する葡萄アルパリーニョやコンテジシヨの白ワインが合う。



「聖母マリアの頌歌集」に載るサンフォーナを弾く細密画(“Web Gallery of Art”より)

## Walking in the rhythm

——都市のリズム

scene 05 — ビーゴ

画が現存し、13世紀のビーゴ出身の吟遊詩人マルティン・コダックスが残り、今も古楽アンサンブルや各地の合唱団などでも歌われている「カンティーガス・デ・アミーゴ」などが伝わるので、古い時代から独自の音楽文化が成立していたことは間違いない。

その多くは地域の伝統的な祝祭と結びつき、現代でも、足をリズムカルに交差させる独特なステップで、輪舞から対面で踊る6/8拍子のムイニエイラ(Muiñeira)や、指を鳴らしながら軽飛び跳ねるステップで踊る3/4拍子のショタ(Xota)などの伝統舞踊の演奏には、必ずガイタをはじめとした伝統楽器が用いられる。これらのダンスは、子供の頃から様々な行事に取り入れられ、音楽はビーゴの人々の生活に溶け込んでいる。

\*\*\*

20世紀初頭、ポンテベドラで薬局を営んでいたペルフェクト・フェイホーが率いた「郷土の歌合唱団(El coro Aires da Terra)」というバンドが、初めてガリシア音楽を録音し

### [ Listening ]

**Carlos Núñez/A Irmandade das Estrelas (星の兄弟愛) (1996)**  
ガリシア音楽を世界に知らしめた名盤。カルロス・ヌニェスが国内外の著名アーティストとのコラボで美しく力強い演奏を披露した記念すべき作品。トラディショナルの他、「Para Vigo Me Voy」などの楽曲を収録。



ビーゴにはほぼすべてのガリシア伝統音楽を学べる学校がある。写真は20世紀後半に再び取り入れられるようになったアルバ・ガジェガ(ガリシアン・ハープ)と演奏者(「Escola Municipal de Vigo de Música Folk e Tradicional」HPより)

た。彼は、ガリシア音楽を広め記録することに心血を注いだ人物として知られており、現在の一般的な演奏形態と合唱、口承で伝わってきたアララーの歌唱法などを確立させた。

そして、1976年のフランコ独裁政権終焉までの文化的空白の後、ガリシア音楽は大きく復活する。ミジャドイロを筆頭に、多くのバンドやソロ・アーティストがリバイバルブームの中で世界的に活躍し、現在に至っている。ダンス音楽としてのガリシア音楽は、くつきりとしたリズムと、繰り返される親しみやすいメロディが楽しい。また、アララーは独唱形式の古典的なジャンルで、歌詞の単語の最初の音を揃えてリズム感を出す伝統的な頭韻法を用いた美しい歌だ。ガリシア人の

魂の歌と言われ、セレナーデのような切ない旋律に哀愁を込めて歌われる。現代でも歌自慢の祭りなど、こぞという場面で披露され、世代を超えて歌い継がれている。

高橋めぐみ | Megumi Takahashi  
音楽プロデューサー。インディーズ・レーベル「アオラ・コーポレーション」で30年以上にわたりA&R、マーケティング、プロデュースに携わる。音楽コーディネーターとして無印良品のBGMシリーズ「19 Galicia」「20 Lima」「22 Basque」に参加。フィールドはスペインと南米。『スペインのガリシアを知るための50章』(明石書店、2011年)に執筆参加。食文化にも造詣が深い。

石橋 純 | Jun Ishibashi  
東京大学大学院総合文化研究科教授。東京外国語大学スペイン語学科卒業後、家電メーカー勤務中にベネズエラに滞在。のちに大学教員に転身。文化人類学・ラテンアメリカ文化研究を専攻。著書に『熱帯の祭りと宴』(柘植書房新社、2002年)、『太鼓歌に耳をかせ』(松嶺社、2006年)ほか。



伝統的な衣装を着て演奏するガイテイロたちは、ガイタ(スコットランドやアイルランドのバグパイプ)とは少し形式が異なるを中心に打楽器が集う。



# THE SITE

## 旧九段会館に 新たな歴史の1ページ が花ひらく

(仮称)九段南一丁目プロジェクト新築工事



### 【工事概要】

(仮称)九段南一丁目プロジェクト新築工事  
場所：東京都千代田区  
発注者：ノーヴェグランデ®  
設計：鹿島・梓設計・工事監理業務共同企業体  
用途：事務所、店舗、集会場  
規模：S・RC・SRC造(免震・制震構造) B3, 17F  
延べ67,738㎡  
工期：2018年5月～2022年7月  
(東京建築支店施工)

※東急不動産と当社が本プロジェクトのために出資する事業会社



完成予想パース



旧建物の保存・新築エリアと搬入動線

オフィスビルの集う都心でありながら、皇居外周に位置し、東京の歴史を辿る上で重要な建造物が多く、文化拠点としても魅力をもつ九段エリア。この地で長いあいだ親しまれてきた旧九段会館が、一部保存、建替えを行い、最新のテナントビルとして装い新たに生まれ変わる。工事の最終段階に入る現場から、保存、復原を中心としたこれまでの工事の道のりと、竣工にかけるチームの意気込みをレポートする。

### 歴史的建造物の保存、復原

旧九段会館の歴史は1934(昭和9)年にさかのぼる。昭和天皇の御大典を記念し建てられた建物は、SRC造の洋風建築に瓦屋根を載せた帝冠様式と呼ばれる外観が特徴で、10種類もの石を用いた建物の外壁や内装の随所に、当時の粋と工夫を集めた職人技が光る仕上げや装飾が施されていた。皇居外苑のお濠に面する一帯は桜の名所でもあり、このエリアに馴染みのある方も多いただろう。

2011年、東日本大震災による影響で閉館したが、建物の価値を現代に合った形で継承し、再活用するための事業アイデアが公募され、東急不動産・鹿島・梓設計コンソーシアムが、外壁全面保存、免震レトロフィットの提案で2017年に受注した。

計画建物は、旧九段会館の一部を保存、復原した保存棟と、旧建物を建て替える新築棟からなる。お濠サイドにはテラスを整備し、将来的には桜を見ながら周辺エリアを散策できるようにする計画だ。

### 保存棟を生かす搬入動線計画

工事の最初の難所は保存棟を残しながらの搬入動線計画。「他社には搬入ルート確保のため、保存部分を一旦解体する提案もあるなか、我々は保存部分には手をつけず、長方形の建物をL型に残していくプランが評価されました。そのぶん、搬入ルートの確保にはだいぶ苦労しました」と現場を率いる神山良知所長は振り返る。

敷地の西側は江戸城跡特別史跡である牛ヶ淵が隣接し、搬入は内堀通りの南・

北ゲートの2カ所に限られた。この条件下での搬入動線を具体的に計画したのが、内幸町二丁目プロジェクトとの兼任から赴任した鴨下友一次長である。「L型に建物を残していく施工条件を見た段階で、すぐに完成時の状況からさかのぼって多少の変更にも対応ができるような計画を立てました」。

新築棟への動線は、保存棟に触れないようにお濠側へと回りこむ迂回路を先行してつくっていくが、お濠の上の跳ね出しが江戸城跡特別史跡に影響しない検証を重ねた施工計画を携え、行政の協力を得ながら搬入路を確保した。

### 工程の前倒しを協議

新築棟の地下躯体工事は当初二段打ち工法で計画していたが、工程表を見直し、基礎躯体工の着手を3ヵ月前倒しすることで順打ちに変更する計画を、建物を管轄する財務省に申し入れた。2018年5月の着工から神山所長と現場を支えてきた坂本篤工事担当が振り返る。

「解体工事着手の前倒しは、保存復原工事と新築棟工事に向けてもメリットが多くありました。解体工事先行は一部着手できない箇所もありましたが、先行して保存棟チームに保存記録を進めてもらい、どの



神山良知所長



鴨下友一次長



創建時の旧九段会館



解体工事中。切断するワイヤーソーを繰り出す

部分を“生かし取り”(部材転用)し、いつまでに解体するかという日程調整を詰めていきました」。保存棟を守りながら解体工事をどのように進めたのか。「解体中の振動で保存棟に損傷を与えないよう、ワイヤーソーで躯体に幅600mmのスリットを設け、保存棟と解体エリアに建物を分断していきます。橋脚を切る工法を応用したのですが、この作業に約3ヵ月半かかりました」。

2019年5月、新築棟エリアの地上躯体解体工事を予定通り完了させ、翌6月からは地下躯体解体(保存棟と新築棟エリアの本館地下)および、地中障害撤去工事を進めた。「地中に約1,600本埋め込まれていた本館の杭の撤去にも苦労しましたが、土工事中はお濠付近での15mの掘削に細心の注意を払い、24時間管理で水位が減っていないことを確認していました。保存棟も土工事による沈下の可能性を防ぐため、山留めの強度を上げ、変位を最小限(10mm以内)に抑えて掘り進めました。忙しい毎日でしたが、鴨下次長が赴任前から、

復原への熱意



保存棟正面と新築棟。田安門の方角から撮影(2022年4月1日)

photo: Kunihiko Ishijima

免震などの安全・施工計画、役所への届け出、土工事の掘削など、多岐にわたって精査・指導してくれていたおかげで、工事の手順と実働などやるべきことも見えていました」。

2020年3月、土工事完了の工程厳守を貫き、無事耐圧盤着手へとつないだ。

### 復原への熱意

山森悟工事課長は、東京駅丸の内駅舎復原工事、高島屋日本橋店外装改修工事と歴史的建造物に携わってきた経験を活かし、本工事に臨んだ。

いざ工事を開始すると、工事計画や図面とは異なる箇所が多くあった。「たとえば左官仕上げだろうと思っていた擬石が実はブ

レキャストできていたり、外壁にスクラッチタイルとあるが分厚い煉瓦のようなものだったり。その都度、現地に合わせた工夫が必要でした。解体エリアからの部材転用の判断は東京駅での経験を踏まえ、つくりこみの検討は、神山所長をはじめ、経験豊富な協力会社や専門家の具体的なアドバイスを受け、試行錯誤を重ねています」。

石はほぼ国産品で集められていた創建時の仕上げをそのまま残し、同種の材料で補修。玄関ホールや床に大理石、外壁に花崗岩、内装も解体エリアからできるだけ多く転用しデザインを統一。「外壁のスクラッチタイルは新規でつくると質感が再現できないので、全て転用することにしました。70年間は剥落しないように、1枚ずつステ



坂本篤工事担当



山森悟工事課長





石の底部の復原作業中 photo: shinjiro yamada

ンレスアンカーピンを入れています。ピンニング跡はほとんど見分けがつかない出来栄えだと思えます」。

帝冠様式を特徴づける屋根の瓦にはチーム丸となってこだわった。「解体エリアからの転用では数が足りず、半数程度新規で製作しました。創建時の瓦とは原材料も窯焼きの製法も異なります。自然な色むらの風合いを出すのに苦労しましたが、40枚以上の試作を経て、4色を決定しました。新旧の瓦の組合せを工夫しながら屋根に並べ、自然の光線の下で見て完成させています。どこを直したかわからない、といわれるのが最高の誉め言葉ですね」。

## 技術の伝承と復活

内装である玄関ホールや各部屋の天井、壁に採用されている漆喰は、下地に強度を確保する脱着防止処理を行って復原。天井の梁型は保存・補強し、新たに作った軽量鉄骨下地と連結し挙動を一体化さ



創建時の柱の免震改修。柱を一部くり抜き、鉄筋とコンクリートで補強する



当時の職人技が光る石の削り出しと補強の接合部分



新旧を組み合わせた瓦。上裏はピンネット工法(ネットをアンカーピンで固定し、セメント塗り)で剥落防止を施している



外壁を飾る4つの鬼の面は最も状態の良いものを3Dスキャンし、プレキャストで制作。石の粒を混ぜた当時のリゾイド塗りを再現した仕上げで、耐候性をもたせながら独特の質感を出した

スクラッチタイルと擬石が独特の風合いを醸す外壁



スト、品質管理を担当する鴨下次長が振り返る。「保存棟と新築棟では物決めのプロセスが異なります。特に保存棟は、真正性の検証があったり時間軸が異なるので、同時に進めていてもどうしてもずれが生じます。最終的に一本化しなければならないので、新築棟と保存棟の足並みが揃うように設計と協議したり、定例や社内会議で進捗を調整しています」。

神山所長も所員の頑張りを評す。「鴨下次長は工程の組立て、施工の動線、計画が立体的に見えている。山森工事課長は、保存棟の役員室の塗り壁の下に何かを見つけ、その裏側を見させてくれと目を輝かせるような研究者肌(発見された創建

せ、振動対策と剥落防止対策を施している。天井の平部は解体し、張り替えて梁の構造体と組み合わせた。

漆喰の仕上げは、渦巻や直線など部屋ごとにパターンが異なるため、協力会社の提案で専用のコテをつくった。「職人さんも初めての試みとなるなか、こちらの情熱に応えながら技術を習得してくれました。保存とは、昔の技術をそのまま残すことですが、難しいのは、現代では使われていない技術をどう復活させ、伝承していくか。安全上解体しなければならなかった部分や、免震化のための一部解体はやむを得ませんでした。その解体した部分を現代に適合する形で元に戻す技術を開発していくところに、保存復原工事の大変さと奥深さがあると感じています」(山森工事課長)。

## 保存・新築棟の足並みを調整

一方で新築棟は、鉄骨を安全にいか



階段サイドの壁は沖繩産の石、手摺はバリアフリー基準に則った高さで真鍮手摺(転用)と復原手摺を追加。レリーフは創建時のデザインを鋳造

時の織り物クロスは正倉院所蔵の銀壺と類似模様だと判明し、価値を尊重し復原)。坂本工事担当は入社5年目(着工時)で初めて取り組む工事でも計画力が抜群。ほかの所員も、皆それぞれに優秀で努力家揃いです。良いものをつくりたいという思いに向け、その時々に応じた適材適所の人員配置によって、個々の能力や優れた部分を引き出せるように常に心掛けています」。

## 思いを継ぐ

神山所長は1985年入社。千葉県内を中心に大規模ホテル・事務所、超高層マンション建設現場を数多く担当し、研鑽を積んだ。「現場で覚えたのは、とにかく工程表を守ること。顧客の工期短縮要求に対しては“〇〇作戦”と名付け、工期を縮めるアイデアをたくさん出し合いましたね。スペックを下げない提案をしてより合理的に変えていくところに、現場ならではの醍醐味があると思っています」。

近年は八重洲の特殊鉄骨工事・東京駅のグランルーフを担当し、浦安市新庁舎で所長として現場を統括した。「この現場は今までの集大成。保存棟でその経験が活き、あらゆるものを時間の許す限り検討していきました。創建時の真正性を追求したい一方で、安全性の確保はもちろん、予算との兼ね合いもある。優先順位を決めるのが所長である自分の仕事と考え、はっきり方向性を打ち出しました。何をどの程度復原し、保存していくかは、物と向き合いながら、そのときの最善の選択、判断をしていった形です。後は状



真珠の間(復原、撮影時はフローリング未着手)。シャンデリアも当時の竣工写真や報道写真を手掛かりに、デザインとサイズを再現



鳳凰の間(復原)の天井保存・補強改修の様子(左)と仕上げ(右)

況に応じて、最適と思われる工法を決めていく。そして役員室のクロスのように、何か発見があったときに工夫する発想と、『よく現場を見ること』を大事にしています」。

現場に乗り込んだ2018年から今年で5回目の桜の季節を迎える。「最高の施工計画が立てられ、それが目に見えて進んでいます。ラストスパートにかけるワクワク感と緊張感、その感動を、チーム一体で味わいたいですね」。

山森工事課長も言葉を継ぐ。「この建物をメモリアルとして大事に思っている方が多いので、復原することで皆さんの思いも後世につなげていけるのが大きなやりがいです。建物が完成後、どのように使われているのかが楽しみです。何十年か経って後年また改修されたときに、『鹿島はきちんとした仕事をしてたね』といわれるものを仕上げたいと思います」。

完成後のにぎわいに早くも期待だ。



漆喰塗りには専用のコテを開発(左上)。漆喰の上にさらに丁寧な彩色が施されていく



役員室の白い壁下から発見された創建時の織り物クロスは洗浄し、復原。ほかにも保存棟からの数々の発見(木の設えの中に金・銀をまじった壁紙、鉄製扉と真鍮の釘番、チーク製木扉など)が現場提案で復原された





# The 17th KAJIMA Sculpture Competition

## Sculpture Architecture & Space

当社 K1 ビル・アトリウムでの審査風景

**審査委員**  
 酒井忠康(美術評論家)  
 澄川喜一(彫刻家)  
 安田 侃(彫刻家)  
 横 文彦(建築家)  
 谷口吉生(建築家)  
 押味至一(当社社長)

当社ホームページでは、第1回からのコンクール入賞作品を紹介しています。  
<https://www.kajima.co.jp/csr/culture/sculpture/index.html>

## 第17回 KAJIMA彫刻コンクール テーマ:彫刻・建築・空間

KAJIMA彫刻コンクールは、当社の創業150周年記念事業の一環として1989年に創設以来、「彫刻・建築・空間」をテーマに隔年で開催されている。彫刻と建築空間の緊密な関わりを特徴とした国内唯一の屋内彫刻展として、回を重ねてきた。

第17回となった今回は、国内外から個性溢れる182点の模型応募作品が寄せられた。押味会長をはじめ、美術評論家・彫刻家・建築家ら5名を審査委員に迎え、

昨年9月3日、8点の入選作品と36点の模型入選作品を選出。本年2月25日に行われた最終審査では、実物制作された入選作品の中から、銀賞2点、銅・奨励賞各1点が決定した。3月4日、当社K1ビル(東京都港区)で行われた表彰式には関係者が出席し、新たな芸術作品の誕生を祝った。

引き続き本コンクールは、彫刻と建築が互いに語り合う空間の創造と新たな個性を持った作家の輩出を目指す。

入選作品の一般公開  
 ・当社K1ビル・アトリウム 3月5日～25日(会期終了)  
 ・あすとHall(大阪府東大阪市) 4月28日～5月12日

第17回KAJIMA彫刻コンクールの入賞作品は、下記の二次元コードを読み取ると映像でご覧いただけます。



### 銀賞

作品名: 記憶のスケッチ  
 作者名: 石原カオル(イシハラ・カオル)  
 素材: 鉄・その他の金属・プラスチック・軽量コンクリート



**【銀賞コメント】**  
 1番嬉しかったのは1次審査のお知らせです。このコンクールには2回目から応募していて、時々模型入選はしていてもずっとダメでした。前回落ちた時は、もう自分の人生では無いと諦めていたぐらいです。目には見えない彫刻を考えましたが、それは無理です。そこで、ハッキリとは見えない彫刻を求めました。受賞するはずが無いと思っていたので2次審査の受賞には驚きました。これを機に、10代のころ夢見た彫刻家を目指します。



### 銅賞

1 作品名: 時間が流れてみえたもの  
 作者名: 関玄達(セキ・ゲンタツ)  
 素材: アルミニウム・鉄



### 奨励賞

2 作品名: Crossing lights 交差する光  
 作者名: 中林文治(ナカバヤシ・タケハル)  
 素材: 真鍮・鉄



### 銀賞

作品名: 時を漂う  
 作者名: 渡辺行夫(ワタナベ・イクオ)  
 素材: オオイタドリ・針金・発泡スチロール・台座ステンレス



**【銀賞コメント】**  
 私は石を主な材料として長く作品を制作してきました。十数年前にチョットしたきっかけでこの植物が気に入り始めました。北海道に自生するこのオオイタドリを原材料に使い造形してみようと思いました。この植物は一年生植物で同じ場所から毎年成長を繰り返します。まるでリサイクル工場です。この植物を使って太陽エネルギーで乾燥し凝固させることでカーボンニュートラルな魅力的な工程でグリーンオブジェとなります。様々な技法や材料の使い方を試し、植物の持つ魅力を引き出す試行錯誤をこれからもやっていきます。

### 入選

- 3 作品名: 風は吹く  
 作者名: 浅野左倉(アサノ・サクラ)  
 素材: 石材(黒御影石)
- 4 作品名: 月と水脈、地下  
 作者名: 岡田健太郎(オカダ・ケンタロウ)  
 素材: ステンレススチール・鉄・ウレタン塗装
- 5 作品名: 風  
 作者名: 北川太郎(キタガワ・タロウ)  
 素材: 大理石
- 6 作品名: 空へ  
 作者名: 望月久也(モチヅキ・ヒサヤ)  
 素材: スチール / 表面処理後塗装仕上げ





中國人壽金融大樓

場所:台湾 台北市  
 発注者:中国人壽保険  
 設計:大元聯合建築師事務所  
 用途:事務所, ホテル  
 規模:S・RC造 B5, 18F, PH2F 延べ81,495m<sup>2</sup>  
 工期:2017年1月~2020年12月  
 (中鹿營造施工)



The Parkhouse

場所:オーストラリア ビクトリア州メルボルン  
 発注者:Salta Properties  
 設計:SJB  
 用途:集合住宅  
 規模:RC造 9F 530戸 延べ76,037m<sup>2</sup>  
 工期:2019年1月~2021年1月  
 (アイコン施工)



Photo: Ichikawa omura

横浜環状南線 釜利谷ジャンクションCランプトンネル工事

場所:横浜市金沢区~栄区  
 発注者:東日本高速道路  
 設計:中央復建コンサルタンツ  
 規模:NATM 延長941m 幅員11.6m 内空断面積79m<sup>2</sup>  
 工期:2016年3月~2021年3月(横浜支店JV施工)



日高自動車道 新冠町 大狩部トンネル工事

場所:北海道新冠郡新冠町  
 発注者:国土交通省 北海道開発局  
 設計:パシフィックコンサルタンツ  
 規模:NATM 延長2,151m 幅員13.5m 内空断面積100.3m<sup>2</sup>  
 工期:2016年10月~2021年3月  
 (北海道支店JV施工)



東急東横線・目黒線日吉駅と相鉄・東急直通線との接続に関する工事(土木工事3工区)

場所:横浜市港北区  
 発注者:東急電鉄  
 設計:パシフィックコンサルタンツ  
 規模:ラーメン高架橋2層RC造 延長120m 幅員16.1m 高さ13.3m  
 箱型トンネルRC造 延長150m 幅員7.9m 高さ5.5m  
 工期:2013年12月~2021年3月  
 (東京土木支店JV施工)



**Fulton Industrial Blvd Specs**

場所:米国ジョージア州フルトンカウンティ  
 発注者: Crow Holdings  
 設計: Randall Paulson  
 用途: 倉庫  
 規模: RC・S造 1F 延べ81,951m<sup>2</sup>  
 工期: 2019年10月~2021年4月  
 (カジマ・ビルディング&デザイン・グループ施工)



**ダイナックス苫小牧工場 第6工場**

場所: 北海道苫小牧市  
 発注者: ダイナックス  
 設計: 東畑建築事務所  
 用途: 工場  
 規模: S造 2F 延べ18,576m<sup>2</sup>  
 工期: 2019年9月~2021年3月  
 (北海道支店施工)



**三井リンクラボ新木場1**

場所: 東京都江東区  
 発注者: 三井不動産  
 設計: 当社建築設計本部  
 用途: 研究施設  
 規模: SRC造 6F, PH1F 延べ11,170m<sup>2</sup>  
 工期: 2020年2月~2021年3月  
 (東京建築支店施工)



**ノルデンタワー江坂プレミアム**

場所: 大阪府吹田市  
 発注者: 北興産  
 設計: オーク設計  
 構造設計: 当社関西支店建築設計部  
 規模: RC造 20F 146戸 延べ7,853m<sup>2</sup>  
 工期: 2018年12月~2021年2月  
 (関西支店施工)



**Deakin University Waurn Ponds Student Accommodation**

場所: オーストラリア ビクトリア州ウォアーン・ポズ  
 発注者: Deakin University  
 設計: FIGR Architecture Studio  
 用途: 学生寮, 集会室  
 規模: 木造 2F 320室 延べ8,856m<sup>2</sup>  
 工期: 2019年10月~2021年2月  
 (アイコン施工)



**兵庫医科大学 西宮キャンパス 立体駐車場・デッキ棟**

場所: 兵庫県西宮市  
 発注者: 兵庫医科大学  
 設計: 当社関西支店建築設計部  
 用途: 教育施設, 立体駐車場  
 規模: 立体駐車場—S造 6F, PH1F  
 デッキ棟—S造 3F 総延べ16,116m<sup>2</sup>  
 工期: 2019年9月~2021年3月  
 (関西支店施工)



**Skyline Trinity**

場所: 米国テキサス州ダラス  
 発注者: Flounoy Development Group  
 設計: HEDK Architects  
 用途: 集合住宅  
 規模: 木造 4F 259戸 延べ25,973m<sup>2</sup>  
 工期: 2018年11月~2021年2月  
 (フラワノイ・コンストラクション・グループ施工)



**Shiloh Crossing**

場所: 米国ノースカロライナ州モリスビル  
 発注者: Dominion Realty Partners  
 設計: Rule Joy Trammell + Rubio  
 用途: 集合住宅  
 規模: RC造 3F 318戸 延べ37,870m<sup>2</sup>  
 工期: 2018年8月~2021年2月  
 (ノトソクック施工)



演歌の森うきは

場所:福岡県うきは市  
 発注者:筑水キャニコム  
 設計:当社九州支店建築設計部  
 用途:工場  
 規模:S造 2F 延べ12,520m<sup>2</sup>  
 工期:2020年7月~2021年6月  
 (九州支店施工)



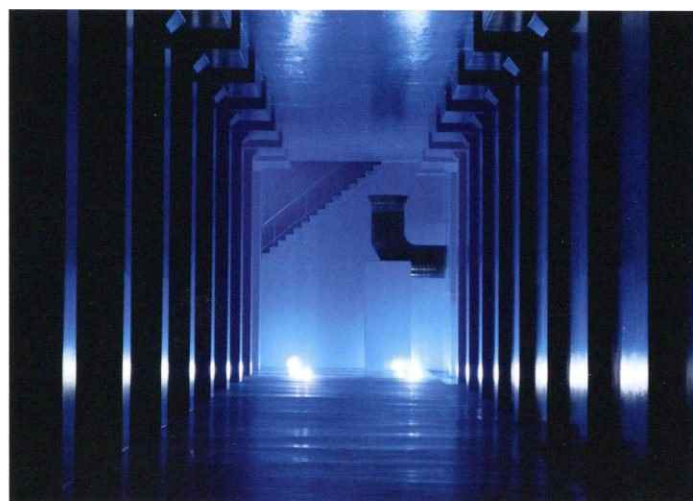
ニッセイJ棟

場所:愛知県安城市  
 原発注者:ニッセイ  
 発注者:ブラザー不動産  
 設計:ブラザー不動産  
 用途:工場  
 規模:S造 2F 延べ2,484m<sup>2</sup>  
 工期:2020年11月~2021年8月  
 (中部支店施工)



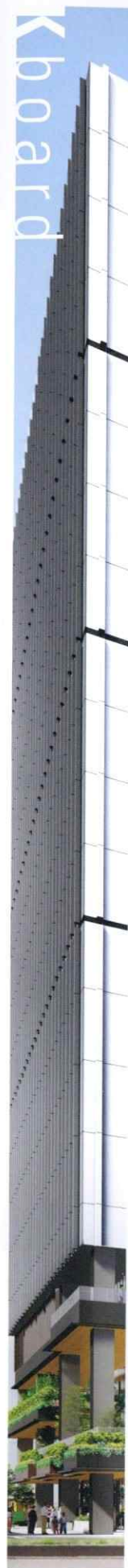
福山新2号機

場所:広島県福山市  
 発注者:瀬戸内共同火力  
 設計:中電技術コンサルタント  
 用途:火力発電所  
 規模:S造 3F 延べ6,121m<sup>2</sup>  
 工期:2017年3月~2021年2月  
 (中国支店JV施工)



千里浄水池(新2号池)

場所:大阪府箕面市  
 発注者:大阪広域水道企業団  
 設計:NJS  
 用途:地下浄水池  
 規模:施工延長78.2m 幅53.8m 高さ10.5m 有効容量16,000m<sup>3</sup>  
 工期:2017年9月~2021年2月  
 (関西支店JV施工)



「アーバンネット仙台中央ビル新築工事」が着工

3月18日、NTT都市開発が計画を進める「アーバンネット仙台中央ビル新築工事」(仙台市青葉区)の起工式が現地で行われ、事業・工事関係者が参列し、工事の安全を祈願した。

本計画は、「せんだい都心再構築プロジェクト」第一号物件に指定され、東北のターミナル駅である仙台駅から徒歩9分、東二番丁通に面した利便性の高い立地に、新たな高機能オフィスビルを建設するもの。都市再生特別地区による緩和で指定容積率の2倍となる約1.180%の容積率を獲得し、地上19階、地下1階、延床面積4万2,113m<sup>2</sup>を有する。

1~4階の低層部はコワーキングスペースやインベーションスペースのほか、次世代放射光施設\*と連携した解析室やレンタルラボ、研究者のための宿泊施設などを配し、テラスは「杜の都」にふさわしい緑あふれる景観を実現する。5~19階は専有面積1,500m<sup>2</sup>を超え

るオフィス階となるほか、120台の機械式立体駐車場を完備。地下1階には柱頭免震構造を採用し、大規模地震発生時には、停電時でも最大72時間ビル機能を維持するための電源供給を可能とするほか、帰宅困難者の受入れにも対応可能な防災備蓄倉庫を備え、事業継続性と安心安全を確保している。

また、建築物の環境性能を総合的に評価する「CASBEE」では最高のSランクを達成し、オフィスエリアでの「ZEB Ready」を取得予定など、環境負荷低減にも貢献する。

加えて、ウォークアブルシティの実現に寄与するシェアサイクルポートの設置など、仙台都心部での新たな交流・賑わいを生み出すオフィスビルを目指し、2023年11月の完成を予定している。

\*国と地域、産と学が一体となり建設を進める新たな研究開発施設。ナノレベルで物質を観察できる「放射光」を使い、新しい機能を持つ材料、デバイスの開発、創業の研究開発などが行われる



完成予想パース

アーバンネット仙台中央ビル新築工事

場所:仙台市青葉区  
 発注者:NTT都市開発  
 基本設計:久米設計  
 実施設計:当社建築設計本部  
 用途:事務所、ホテル、店舗、駐車場  
 規模:S造(免震構造) B1, 19F, PH1F 延べ42,113m<sup>2</sup>  
 工期:2021年6月~2022年3月(解体)/2022年3月~2023年11月(新築)  
 (東北支店施工)

「JR四国高松駅ビル(仮称)新築他工事」安全祈願祭

3月1日、「JR四国高松駅ビル(仮称)新築他工事」(香川県高松市)の安全祈願祭が現地で行われ、来賓をはじめ、事業・工事関係者が参列し、工事の安全を祈願した。

このプロジェクトは、四国旅客鉄道が高松駅の新しい玄関口として、「『時間』と『こと』を楽しみながら、『ここが目的地、出発地』となる施設」をコンセプトにJR徳島駅に続く、四国で有数の駅ビルを建設するもの。規模は、S造、地上4階、地下1階、総延床面積1万5,487m<sup>2</sup>、商業棟1~3階には飲食店や各種店舗などの施設が入り、4階は屋外広場となる。そのほか、駐車場棟では約160台分の駐車スペースを設ける。

既存コンコースと新設商業棟が吹抜けてつながり、外観は、ガ



完成予想パース(北東側)

ラスを淡い青色を基調とすることで水面のきらめきを表現するなど、瀬戸内海の穏やかな海のゆらぎをイメージしたデザインとし、高松の海と陸のつながりを演出している。

全国から人の訪れる、サンポート地区の賑わいある商業施設を目指し、2023年8月の完成を予定している。

JR四国高松駅ビル(仮称)新築他工事

場所:香川県高松市  
 発注者:四国旅客鉄道  
 設計:当社関西支店建築設計部  
 用途:店舗  
 規模:商業棟—S造 4F  
 駐車場棟—S造 B1, 4F 総延べ15,487m<sup>2</sup>  
 工期:2021年8月~2023年8月  
 (四国支店JV施工)



## 2022年度 入社式

4月1日、ホテルイースト21東京(東京都江東区)で2022年度の入社式が行われ、天野社長から新入社員代表に辞令が交付された。

天野社長は訓辞の冒頭で当社の経営理念に触れ、当社は「進取の精神」のもと、先駆的な技術開発や建設、開発事業などを通じて社会や顧客の信頼を得てきたと語った。さらに、建設業は社会性・公共性が高く持続性のある安定した産業であること、鹿島グループにおけるバリューチェーンの考え

方、新入社員への期待を述べた。最後に「たくさん人間関係を作っていく中で、能動的に自ら働きかける姿勢を持ち続けていただきたい。皆さんの成長と活躍を願っています」との言葉で結んだ。

今年迎えた新入社員は311名。訓辞を受けて新入社員代表は、「諸先輩たちが築き上げられてきた信頼を受け継ぎ、『進取の精神』をもって新しい課題に全力で取り組んでまいります」と答辞を述べた。



天野社長の訓辞



辞令交付



新入社員代表による答辞

## 「横濱ゲートタワー」まちびらきイベントを開催

3月24日、当社と住友生命保険、三井住友海上火災保険が手掛けた「横濱ゲートタワー」(横浜市西区)のまちびらきイベントが現地で開催された。

オープニングセレモニーは、LEDドームシステムを備える球体ドーム「コニカミノルタプラネタリア YOKOHAMA」で行われ、来賓の山中竹春横浜市長、横浜みなとみらい21坂和伸賢理事長、コ

ニカミノルタプラネタリウム古瀬弘康代表取締役社長らとテープカットで開業を祝った。

主催者として、当社塚口執行役員開発事業本部長は関係者への御礼を述べた後、「開港時の横浜を重ね合わせ、『はま』の字は当時使用されていた旧字体とし、ビジネスや賑わいの起点になってほしいとの願いを込めた」と説明。山中横浜市長は、「まちの新たな



オープニングセレモニーのテープカット(右から3番目が塚口執行役員)

## 2022年度 期首経営総合会議開催

4月6日、当社KIビル(東京都港区)で、2022年度期首経営総合会議が開催された。

天野社長は会議冒頭の訓示で中期経営計画をスタートした1年目について、期首目標を確保できる見通しであることに、社員の努力に謝意を述べた。

続いて、昨年度から当社が直面している課題として、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況下で、ウクライナ情勢の影響も加わり、材料価格が急激に上昇し、製品の納入も滞るような事態となっているため十分な注意と適切な対応が必要であることを述べた。また、2024年度からの時間外労働上限規制の建設業への適用を見据え、「鹿島品質」を確保しながら生産性向上を図り労働時間を削減すべく様々な試みを行うことを述べた。そのほか、デジタルを活用し業務手順を整理すること、中期経営計画に基づきバリューチェーンの拡充と強固な経営基盤整備をさらに進めることを呼びかけた。

おわりに、「コンプライアンスの徹



訓辞を述べる天野社長

底や環境問題、SDGsに代表されるサステナビリティ課題への取組みの重要性が高まるなど企業価値の捉え方が変化している。「時代に合った社会規範・価値観」と「外部の目」を常に意識してほしい」と語った。

会議では、本社各部門・支店から今年度の経営目標と重点施策の説明、安全管理と担い手の確保、コンプライアンスおよびリスク管理の徹底、支店での開発事業の推進などの説明のほか、「日建連表彰2021土木賞・BCS賞」について、受賞案件の紹介が行われた。



プラネタリア YOKOHAMAの迫力あるLEDドーム

ら徒歩3分と利便性の高い複合ビル。プラネタリウムをはじめ、「ヨコハマSDGsデザインセンター」やみなとみらい21に散りばめられたパブリックアートを紹介するアートインフォメーションなどを有し、未来志向の創造的な拠点として期待が寄せられる。

横濱ゲートタワーは、みなとみらい21の玄関口として、横浜駅か

## CO2-SUICOMをカーボンリサイクル技術推進議連の国会議員が視察

カーボンリサイクル技術の国内確立及び需要拡大のための議員連盟(以下、議連)の国会議員が、3月14日に当社技術研究所西調布実験場(東京都調布市)を訪れ、CO2吸収・固定型コンクリートCO2-SUICOM®を視察した。

今回視察に訪れたのは、議連の会長で元経済産業副大臣の牧原秀樹衆議院議員、前会長の佐藤ゆかり前衆議院議員、工藤彰三衆議院議員、鈴木淳司衆議院

議員の4名。当社の役員・社員から、環境配慮型コンクリートについての最新技術開発状況などを聞いた後、CO2-SUICOMの炭酸化養生の実施状況や大型試験体によるCO2吸収実験場などをまわり、各所で積極的な質疑応答が行われた。

最後に、今後の技術開発や海外展開などについて意見交換が行われ、「大変勉強になりました。このような環境配慮型コンクリートが

当たり前に使われる世の中になるように、ともに頑張りましょう」との言葉で視察を締めくくった。



当社の技術開発の実施状況説明に耳を傾ける様子

※日本の経済社会の競争力ある繁栄基盤と安全な国土を将来世代に継承するため、カーボンニュートラル推進に不可欠なカーボンリサイクル技術の革新的技術の確立と需要創出の双方における研究と政策推進を行うことを目的として、2021年3月に設立

## 栃木地区で担い手確保に向けた取組みを実施

2月16日、関東鹿栄会栃木地区会(以下、栃木地区会)主催による新卒入職者向け「ビジネスマナー研修」がオンライン形式で開催された。

栃木地区会は、建設業界における喫緊の課題である担い手確保に向け、数年前から工業高校などで出前授業や技術指導に取り組んでいる。その成果が徐々に現れ始めた昨年6月、栃木地区会会員の

卒業生を業界全体として歓迎し、また同世代のつながりをつくるきっかけを目的とした「合同入職式」を初の試みとして開催した。今回のビジネスマナー研修もその一環で、新卒入職者の仲間意識の高揚による定着率向上とともに、社会人としてのビジネスマナーの理解促進を図った。研修には会員9社から18名が参加。外部講師を招き、グループワ

キングや演習を通して職場のコミュニケーションについて学んだ。

同日は、当社ならびに栃木地区会共催による「2021年度経営幹部

研修会」もオンライン形式で開催された。当社は今後も、栃木地区会と協力をしながら担い手確保に向けた取組みを継続していく。



研修の様子 英和技研



野澤青葉

## 次亜塩素酸水による除菌コンサル—鹿島グループ感染対応ワーキング—

新型コロナウイルス感染拡大を契機に、2020年8月、当社グループは各社が保有する技術を活かして最適な提案を目指す「鹿島グループ感染対応ワーキング」を立ち上げた(本誌2021年3月号掲載)。同年12月には、感染対応技術をまとめた顧客説明用のパンフレットを作成。当社が参画するスーパーコンピュータ「富岳」を活用した新型コロナウイルス対策プロジェクトで得られた知見なども活かし、具体案件におけるソリューションの提案を継続しつつ、発展・高度化の検討を重ねている。

ソリューションのひとつが「除菌コンサル」。施設を安心して使用できるよう、最適な除菌計画に基づいた装置・手法選定と運用を

提案するもので、当社グループは、新型コロナウイルスに対して有効な消毒物質として国が公表した次亜塩素酸水を用いた接触感染対策提案を展開している。保有する特許技術など信頼性のあるエビデンスに基づき、要求レベルに応じた次亜塩素酸水噴霧計画を策定し、要望に応じて噴霧器設置や設置後のメンテナンスにも対応する。現在、当社本社ビルのほか、グループ会社のホテルイースト21東京、中外ライフサイエンスパーク横浜工事事務所(横浜市戸塚区)などで導入されている。

建物や利用者の特性に精通する当社グループならではのコンサルで、安心できる環境・空間づくりをサポートする。





赤坂農園でリフレッシュ!

2019年3月、鹿島KIビル(東京都港区)屋上の北東の隅に、社員が誰でも参加できる「赤坂農園」が完成しました。40㎡のスペースに、立ったまま作業ができる大型プランターを設置し、仕事の合間のわずかな時間に土に触れ、野菜を育てることができる農園です。毎年、春夏秋冬4作の野菜を栽培し収穫を楽しんでいます。4年目を迎え、部署や世代の垣根を越えて200名以上の方々にご支援ご賛同いただいています。

春に植える野菜はリーフレタスです。都心のビルの屋上でも、太陽の光をたっぷり浴びた味の濃い瑞々しいレタスが育ち、GW前に収穫会を行います。

2020年春には、マザーグリーンとマザーレッドという2品種を植え分けて鹿島のロゴと西暦を浮かび上がらせてみました。毎回、野菜のセレクトやレイアウトにテーマ性を持たせ、収穫会にもひと工夫加えて運営しています。虫・鳥・異常気象とも丁寧につき合い、野菜を介した新たなコミュニケーションの場が生まれる「赤坂農園」。季節の野菜の生育ぶりを観察しながらリフレッシュ!ぜひお気軽にご来園下さい。

(One Team 宮川美穂)



リーフレタス2品種で鹿島のロゴと2020の文字を浮かび上がらせる(2020年4月)



カラフルカリフラワーの収穫(2020年11月)



夏野菜収穫の日、屋上に賑わいが生まれる(2020年8月)



皆さまからの写真を募集しています。現場の仮囲いや旗、懐かしい1枚など「鹿島」が見える、美しい写真、楽しい写真、意表を突く写真など、ご投稿をお待ちしています。 <https://www.kajima.co.jp/news/digest/>

編集後記

今月はAKASAKA KX-Projectを特集しました。赤坂地区のオフィス再配置を皮切りに、生産性の向上やコミュニケーションハブの整備を図り、オフィス環境とワークスタイルの変革を目指すプロジェクトです。取材・撮影では、緑や光、水の音などを感じながら、各執務エリアの魅力的なオフィス空間を堪能。写真を見た学生が「鹿島のオフィスで働きたい」と興味を持ってくれることを期待しつつ、鹿島グループのwell-beingな働き方への挑戦に今後も注目していきたいと思ひます。(智)

鹿島の見える風景の「赤坂農園」は、「KIビルの屋上でみんなと野菜を育てたい」というグループ会社社員の希望がきっかけとなり、多くの賛同者の協力を経て実現に至ったものです。広報室員も参加した枝豆の収穫会では張りのある大豆がたくさん実っていて、みで楽しく収穫しました。さて、前身が農業高校だった私の高校では、学園祭を「収穫祭」の名で開催していました。男子校が他校生で賑わう唯一の機会。何かがあることを期待し、模擬店の計画・準備に勤しむ。そんな青春でした。(真)

はじめまして。新たに月報編集に携わることとなりました。これから皆様に様々な情報を発信して参りますので、どうぞよろしく願い致します。さて、桜も散り気温も上がり始め、初夏の陽気に近づいて来ました。キャンプに出掛けて星空を眺めたりと夜でも気持ちのいい季節になりましたね。先日オープンした横濱ゲートタワーにはプラネタリウムも併設されているので、虫が苦手な私は、まずはプラネタリウムで何年かぶりの天体観測を家族で楽しみたいと思ひます。(瑛)

色の淡い、なめらかな緑。表面の陰影。焼きものの不揃いな線や形が、年相応に沁みる近頃。陶芸体験では形も色もイメージと程違い、分厚いどんぶり皿が焼き上がってききましたが、やはり手作りは嬉しいもの。THE SITEでは満開の桜に彩られた、九段南一丁目プロジェクトの現場をレポート。窯焼きにも立ち会い製作したという瓦は、40枚以上の試作を経た熟意のたまものです。完成した瓦屋根は、1枚ずつ異なる色の濃淡が絶妙で、歴史ある建物の風格を感じます。(ゆ)

- ホームページ <https://www.kajima.co.jp/>
- 鹿島へのご相談・ご意見・ご提言は「鹿島相談コーナー」へ

2022年5月号  
(No.753 社内報 KAJIMA)

発行：鹿島建設株式会社  
東京都港区元赤坂1-3-1 〒107-8388  
編集：広報室  
問合せ：pr-kajima2@kajima.com

本誌記事のお尋ね並びに引用の場合は  
広報室にご連絡下さい

ISSN 0916-7196  
印刷：凸版印刷株式会社  
デザイン：齋藤千秋デザイン室

# 備える

Vol. 209

## 「場」をつくる

反田恭平

どうい音楽家になりたいか、と問われれば、モーツァルトやベートーヴェンのような音楽家に、と答えます。幼少のころから、夢を与えられるピアニストになりたいと考えていました。ピアノ演奏には、弾いていて自分が楽しいだけでなく、感情を表現できる楽しさがあります。僕がピアノを弾くと周りには喜んでくれる人がいました。感情を表現することで聴く人の心を打ち、夢を抱いてもらえるような、そんな演奏を目指したいと思ひました。本格的に勉強を始め、留学し社会に出て演奏を続けていくと、こどもたちを始めいろいろな世界の人に聴いてもらう機会が広がります。ますますその思いは大きくなっていきました。

ピアノは、ヴァイオリンなどとは異

なり、鍵盤を叩けば誰にでも音は出せるシンプルな楽器です。だから、ピアノニストはそこから自分だけの音をつくるのです。音の違いは○・○一ミリの指先のコントロールで決まってくるくらい。その技術に優れたピアニストもたくさんいれば、知名度の高い人気のあるピアニストもいます。僕はあることならその両方を叶えたい。たとえば美空ひばりさんの歌声を聞いたら彼女とわかるように、この音は反田恭平のピアノだ、という音を出せるのが究極です。

打撃を受けました。何かできることは



そりた・きょうへい

ピアニスト

1994年生まれ。  
2014年チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院を経て、16年にリサイタルデビュー。  
20年にパリやウィーンでもデビューを果たし、ベルリン・ドイツ交響楽団をはじめ各国のオーケストラと共演。  
21年第18回シヨパン国際ピアノコンクールで、日本では半世紀ぶりの第2位を受賞。  
19年にはイーラスとの共同事業でレーベルを立ち上げ、20年のコロナ禍ではいち早く有料のストリーミング配信を行う。  
21年5月にはオーケストラのための会社「ジャパン・ナショナル・オーケストラ」を設立、奈良を拠点に活動するなど、クラシック音楽の普及にも力を入れている。現在はF・シヨパン国立音楽大学研究科に在籍中。好きなホールはウィーンの楽友協会。

オフィシャルHP <https://www.kyoheisorita.com>  
オンラインサロン Solistiade <https://solistiade.jp/>

ないかと考えたのが、配信コンサートでした。思いついたまま急ぎ知己の方に相談し、チケットを販売して、実際にコンサートを行って演奏を配信しました。当時は有料配信なんてことをクラシックの人間が行うとは、と批判も浴びましたけど、もはや配信型のコンサートは世界中で行われている。批判をした人にさえ、歓迎されているくらいです。

では学校をつくり、優れた演奏家を育

てたいと夢を抱いています。それは自分にとつては、演奏と同じくらいにやりたいことなのです。シヨパン・コンクールへの出場も、会社の社長として、そして将来の校長の名前が有名になるならばと挑んだもの。二位という結果をいただけたのは、これまでの自分の歩みを肯定してもらえたのかなど、背中を押された思いで受け止めています。そう、モーツァルトやベートーヴェンは作曲をし、自ら演奏も行った。しかもパトロンを探したり、演奏会を企画するなど、演奏する場自体も自分でつくって行きました。時代は大きく異なりますが、僕も同じように、夢を与える演奏の「場」をこれからもたくさんつくり続けていきたいと思ひています。



